

「ちっこ教育の日」関連事業

令和7年度 青少年健全育成のための

# 意見発表会

～テーマ～

小学生『伝記を読んで思うこと』『筑後市の未来と私』  
もしくは自由テーマ

中学生『筑後市の未来と私』もしくは自由テーマ



と き：令和 7 年 11 月 2 日 (日)

ところ：サザンクス筑後 小ホール

●主催●

筑後市・筑後市教育委員会・筑後市青少年育成市民会議・筑後市PTA連合会

## はじめに

こんにちは、筑後市青少年育成市民会議の会長を務めさせていただいております徳永拓です。11月2日の「青少年健全育成のための意見発表会」にはたくさんの方々にお越しいただき、心より感謝申し上げます。

本年も小学生は「伝記を読んで思うこと」、中学生は「筑後市の未来と私」をテーマに12名の皆さんに発表していただき、「伝記を読んで思うこと」では自分の未来に対する糧を感じたと思いました。「筑後市の未来と私」では、文化の伝承を通じてのふるさと愛、安心安全で住みやすい筑後市にしたいという思いや考えを感じることができました。

私たち大人は、悠々と未来に羽ばたいていけるような子供たちを育て、応援していきたいと考えております。

最後になりますが、お忙しい中参加いただいた皆様、および各学校関係者各位、早朝より会場運営のお手伝いをいただいた皆様のご協力に感謝申し上げます。また、地域の皆様には今後とも青少年健全育成にご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和7年11月

筑後市青少年育成市民会議

会 長 徳永 拓

### 「ちっご教育の日」とは…

市民の間に教育尊重、教育振興の世論を喚起し、市民自ら生涯学習への参加を促し、心豊かに生き抜く子どもが育つ教育風土の醸成を図るため、11月第1日曜日を「ちっご教育の日」とし、この趣旨にふさわしい取組みを行う期間として、11月1日から同月30日までを「ちっご教育月間」とするものです。

－平成17年10月19日 教育委員会告示第1号－

# 目 次

## <意見発表>

### 【小学生の部】

失敗は発明の材料、トーマス・エジソン	水洗小学校 5年 山口 結	1
学びてのち 足らざるを知る	筑後南小学校 5年 小川 誠士郎	2
“ハッピー”をみんなに	古川小学校 6年 横溝 花	3
動物好きなジョイ・アダムソン	二川小学校 5年 田中 晴陽	4
My Hero	筑後小学校 6年 野中 千愛	5
私の思う「強い心」	羽犬塚小学校 6年 永田 くるみ	7
私の挑戦	松原小学校 6年 酒見 光	8
蔦屋重三郎から学んだこと	西牟田小学校 6年 加藤 奏蘭	9
やなせたかしさんから学んだこと	筑後北小学校 6年 川口 弘喜	10

### 【中学生の部】

筑後市の文化と私	筑後北中学校 2年 富安 湖々南	11
みんなが帰る場所、筑後市	筑後中学校 2年 葉山 未菜	12
大好きな町、筑後市	羽犬塚中学校 2年 田中 泰騎	13

◇発表原稿原文のまま、掲載しています。(敬称略)

## 【小学生の部】

### 失敗は発明の材料、トーマス・エジソン

水洗小学校 5年  
山口 結

みなさんは、トーマス・エジソンという人物を知っていますか。トーマス・エジソンは、アメリカの発明家で、ちく音器、白熱電球、活動写真をはじめ、およそ千三百もの発明をした人物です。「発明王」と呼ばれており、「努力の人」として知られています。

幼いころから教育を受けられないという困難に見舞われていましたが、図書館などで、独学で学習をしていました。そんな彼に、更なるかべが立ちふさがります。十一歳のときに難聴障害を発症し、耳が聞こえなくなってしまうのです。そんな彼は、「歳を取るにつれて、難聴のおかげで気が散るこ

とがなくなり、仕事に集中しやすくなった。」と、考えたそうです。この話を聞いて、私は言葉が出ませんでした。エジソンのポジティブの次元が私の予想をはるかに超えていたのです。彼は、「私は失敗したことがない。ただ、一万通りのうまくいかない方法を見つけただけだ。」

と話し、失敗を発見ととらえ、前向きな考え方をしていました。困難や失敗をプラスに捉えることで、あきらめずに挑戦し続ける強い心を持ちつづけたエジソンを、素敵だと感じました。

私がトーマス・エジソンの伝記に出会えたのは、母のすすめがあったからです。私は習い事の習字教室で硬筆がうまく書けなくて、落ち込んでいました。そんな時に母から、どんな困難も前向きにとらえるトーマス・エジソンの考え方を教えてもらいました。

図書館で本を借りて読んだり、母からの話を聞いたりしていくうちに、彼の偉大さを知り、前向きにとらえて生きる彼の考え方にとても魅力を感じました。

私は、習字教室に通っています。しかし、一年生のころまでは思うように書けない日々が続いていました。特に硬筆は苦手で、自分の思う形にならないので、こっそりお手本の字を写し取ってしまったりともありました。習字教室に行きたくないという気持ちにもなっていました。気持ちが落ち込み、どうしようもなくなっている私に、母がトーマス・エジソンの本をすすめてくれたのです。

そこから私は、前向きに考えることを意識するようになりました。すると、気持ちがすつと楽になり、失敗しても

「これは成長している一歩なんだ！」と、思えるようになってい

きました。すると、硬筆展でなんと入賞することができました。その時の胸が高鳴ったあの気持ちは、今でも忘れていません。今では毛筆の練習より硬筆の練習の方が好きになりました。早く習字教室へ行きたいと思う私に変化していききました。また、宿題に漢字練習があるのですが、一字一字丁寧に書くことが、当たり前になっていきました。

以前は、失敗した文字や手を抜いて書いた字を指摘されると、泣いてしまっていたけれど、今では前向きに、自分のために教えてくれているんだと、捉えることができます。ポジティブに最後まで取り組むことができる私になりました。

私には夢があります。それは俳優になることです。一年生の時、学習発表会の劇で役になりきって演じることが楽しかったのがきっかけです。でも、この



仕事に就くためには、様々な役になりきるための努力や、たくさんのおーディションを受け、一握りのチャンスをつかんでいく必要があると思っています。何十回、何百回も審査で落ちるとも聞いています。そんな困難が目の前に立ちあきらかでも、前を向いてれば、私の俳優になるという夢は叶いませぬ。

だから、この習字での経験を生かし、エジソンのように前向きで最後まであきらめない強い心で挑戦し続ける私でありたいです。

## 学びてのち 足らざるを知る

筑後南小学校 5年

小川 誠士郎

「これくらいできればいいや。」

学校での勉強や、習い事の英語や空手。一つの課題をクリアするたびに、僕らの心の中に浮かんできた言葉です。与えられた問題を解くことができたり、新しい言葉や技を覚えたりするたびに、そこで満足している自分がいました。そんな僕の心に「もっとできる」と大きなエネルギーを与えてくれたのが、榎本武揚です。

榎本武揚は、江戸時代の終わりに明治時代にかけて活躍した人物です。オランダに留学して最新の科学や船のことを学び、日本に持ち帰りました。その後、函館で明治新政府軍と戦い敗れてしまいましたが、その能力を買われ、政治家

として新しい時代に合わせた北海道の開拓や発展のために尽くしました。

僕が榎本武揚を調べてみようと思ったきっかけは、三月に行った、北海道への家族旅行です。ゆう大な海や大地に感動し、北海道が大好きになりました。それで、学校で伝記について学習することになったとき、北海道で活やくした人物を知りたいと調べていく中で、榎本武揚に出会ったのです。

武揚は若いころ、オランダに留学し、西洋の海軍技術や最新の学問を学びました。そこで目にした、これまで出会ったことのない技術や考え方に触れた時、

「学びというものは、終わりのないものだ。もっと学び続けなければならぬ。」

と気づいたのです。それからの武揚は、自分の力に決して満足することなく、ひたすらに努力を続け、当時

の日本に欠かすことのできない存在にまで自分を高めていきました。

「学びてのち 足らざるを知る」

武揚の言葉です。これは、「学べば学ぶほど、自分にまだ足りないものがあることに気付く」という意味です。武揚の生き方そのものを表した、重みのある言葉だと思いました。

僕はこの言葉を心の中で繰り返しながら、自分のことについて考えてみました。テストでいい点数をとれるように一生懸命勉強して100点がとれたこと。よりよい学校にするために委員会活動に取り組んで、みんなからありがとうと言ってもらえたこと。空手の試合で勝ったこと。僕にとってたくさん嬉しかったことがありました。

もちろん、そのときの僕は、大満足でした。でも今は、もっと分かりやすく説明できるようになりたい。

もつと自分からみんなのために行動できる人になりたい。次はもっといい勝ち方ができるようになりたい・・・武揚と出会ったお陰で、そう思えるようになりました。「これくらいでいいや。」ではなく、「これから挑戦できることがまだある。」と、次の一歩を見つめることが大切だと気付くことができました。

僕には、夢があります。それは海洋学者になることです。海の生き物を研究したり、地球の未来を守ったりする仕事をしてみたいと思っています。僕が家族旅行で出会ったあの北海道のゆう大な海も、ごみ問題に直面しているそうです。本来のきれいな海を取り戻したい、きつとその役に立ちたい、と強く思います。そのために、知識をつけていくのはもちろんですが、ボランティアなど、ごみ問題を解決する取り組みにも参加していき

いです。そして、武揚の言葉のように、学び続けることで夢に近づいていききたいです。  
「このくらいでいいや」ではなく、「ここからどうしていきけるだろう」と言える自分を目指して。

## ”ハッピー”をみんな

古川小学校 6年

横溝 花

みなさんは「ゲーム」悪だと思いますか？

私はそうは思いません。家族みんなでゲームをしたり、友達と集まってゲームをしたり：ゲームをする時間はみんなとの楽しい会話やたくさん笑顔であふれているからです。しかし、「ゲーム依存症になる」「ゲームが犯罪のきっかけに」といったニュー

スもよく耳にします。その度に、使い方や使う時間、ルールを守れば「悪」なんかではないのに！年齢や性別関係なく楽しめて、学習にだって使える、いろいろな可能性を持っている素晴らしいツールなのに！と、少し悔しい気持ちになります。

そんな私の将来の夢は、ゲームクリエイターになることです。四年生のときに初めてスクラッチでゲームを作りました。とても単純なゲームでしたが、友達や弟がすぐ楽しそうにプレイをしてくれました。そのことがゲームクリエイターを指すきっかけになったと思います。今では自分がゲームをすることよりも、誰かに喜んでもらえるようなゲームを作っているときの方が、わくわくする楽しい時間です。

みんなが喜ぶ、みんなをハッピーにするゲームクリエイターになろう！そ

う決めた私に、母が、岩田聡さんという人物について書かれた本を薦めてくれました。

岩田さんは、任天堂の社長を務められた方で、モットーは「みんなが、ハッピーであること」でした。ニンテンドーDSやWiiといった革新的なゲーム機の開発を主導され、「ゲーム人口の拡大」を目指し、ゲーム業界に大きな影響を与えました。本にあるどのエピソードも「大企業の社長になる人はすごいな。」と思うものばかりでした。その中でも私がハツとしたのは、岩田さんの「人と話していてうまくいかなかったら、相手を『わからない人だな』と思うのではなく、自分が上手く伝えられないように変わらないういけない」、「自分と違う意見の人にも敬意を持って接することが、仕事を面白くしてくれる」などの言葉です。私が考えていた社長像は「人の上に立ち、自

分が一番正しいと信じ、自分の利益のために、周りの人を使う」といったものだったので、岩田さんのこの言葉はとても意外でした。それと同時に、私が目指すみんなをハッピーにするゲームクリエイターになるためのヒントが隠れているように感じました。

私は「芯がしっかりしている」とほめられることがあり、私もそれは自分の良さだと思います。その一方で、考えが自分基準になってしまうことがあり、友達と意見が違うと対立し、けんかになってしまうことがあります。相手の気持ちよりも、自分の意見を通そうとしてしまうことが多かったからです。

しかし、今は少し変われたと思います。まだ、岩田さんのように「自分と違う意見の人に敬意を持つ」とまではいきませんが、自分と異なる意見を持つ人に「どうしてそう考えたの？」と聞いたり、「これ

でいい？」と意見を求めたりできるようになりました。「相手を受け止めるために、自分が少し変わってみる。」そう意識し出したことで、以前より、自分も周りも笑顔が増えたと思います。まだ、難しいことも多いですが、家族、友達、そしてこれから出会う多くの人、その一人一人の価値観やそう考える理由を知って、少しでも受け止められるようになりたいです。そういう生き方はきっと、一人一人のニーズに応えるゲーム作りや、私一人や似た考えの人たちとだけでは作れない、個性豊かなとってもおもしろいゲーム作りの土台になるはずだからです。

改めて、みなさんは「ゲーム」悪だと思いますか？

もし、使い方や使う時間などの、ルールを守れない人がいて「ゲーム」悪になるなら、私は、以前のよ

とみるのではなく、「どうしたら守りたくなるかな」と考えます。そして、いつか、「ゲーム」悪なんて言われないうような、適切に楽しく遊べるゲームを作りたいです。今はまだ、周りとの価値観の違いや考え方の違いに悩むことが多い私ですが、岩田さんのように自分の周りに笑顔を増やしていく生き方をこれから目指します。

「ハッピー」をみんなに！」

## 動物好きなジョイ・アダムソン

二川小学校 5年

田中 晴陽

みなさんは、動物が好きですか。ぼくは、好きです。特に犬や猫が好きです。

小さいころに、ぼくの家では、三匹の犬を飼ってい

ました。二匹が死んでしまった後、残り一匹になったチビのお世話を家族に教えてもらい、餌をあげたり、散歩をしたり遊んだりしました。ボールを投げると取ってくれました。一緒に遊んでいるととても楽しい気持ちにさせてくれました。その犬も去年死んでしまつて、今はいません。でも、楽しい思い出は、今も残っています。

今日は、ライオンを育てた「ジョイアダムソン」さんについて、知ってほしいと思います。ジョイアダムソンさんは、アフリカ大陸のケニアのキャンプ地に住んでいて、植物や自然の中で生きる動物の絵などを描く仕事をしていました。彼女の夫、ジョーじさんは、動物や自然を管理する仕事をしていました。

ある日、ジョーじさんが、母親を亡くした赤ちゃんライオンを連れて帰ってきたので、その世話をジョーイさんがすることになり

ました。ライオンの赤ちゃんが少し大きくなると三頭のうち二頭は、オランダの動物園へ、残りの一頭は、育てることになりました。

ライオンの名前は、エルザ。メスのライオンです。エルザは、やんちゃでいたずらっ子でした。ジョイさんとエルザは、仲良く暮らしていました。でも、「エルザは、かわいけれど、ペットにしてはいけない。いつかは、自然に返さなくてはならない。」ジョイさんはそう思っていました。そして、野生で動物として、暮らしていくのに一番良い場所を探し、ジョイさんは、つらい気持ちをがんばり、大人になったエルザを手放しました。

ジョイさんが、エルザのいる森へ行くと、母親になったエルザは、3頭の子どもを連れて、ジョイさんたちに見せてくれました。エルザと気持ちが通じていたと感じたジョイさんは、エルザのことを物語にま

とめ、本を作りました。

その本には、エルザのこゝとだけではなく、動物の住む場所が人間によつてせまくなっていることも書かれています。ジョイさんが、なぜ、仲良く暮らしていたエルザを自然に返したのか最初は不思議でした。でも、きつと、人間と同じように、動物たちには、動物たちそれぞれのくらし方があり、そのルールを知らないままエルザが大人になれば、エルザには、居場所もなくなり、食事である獲物もとることができずに死んでしまうと考えたから、大自然に返したんだと思います。

ぼくは、犬や猫を飼うことで、楽しい気持ちになれることを知っています。家族も同じです。一緒にいるだけで心が落ち着きます。ぼくは、よく、動物の動画を見ます。この伝記を読む前に、「保護猫が悲しんでいます」という動画を見ました。その動画では、飼

われていた猫が人間の都合で捨てられていました。その動画を見て、とても悲しい気持ちになりました。きつと猫も悲しかったと思います。

世の中には、お金もうけのために犬や猫を飼つて子どもをたくさん産ませたり、育てられなくて、捨てたりする人がいます。

僕は、動物が大好きです。動物は、人間をやさしい気持ちにしてくれるだけではありません。ぼくは、犬を飼つていたことで、近所に住んでいる犬を飼っている人と知り合うこともできました。

ぼくは、これから、自分の気持ちだけではなく、動物の気持ちや暮らしを大切にしていきたいです。大人になったら、保護犬や保護猫を飼つて大切に育ててみたいと思っています。そして、少しでも、悲しい思いをしている動物を減らしていきたいです。動物ぎゃくたいや捨て

る人をなくし、大好きな犬や猫、人もほかの動物も楽しく暮らしていける世の中にしていきたいです。

## My Hero

筑後小学校 6年

野中 千愛

みなさんには、憧れのヒーローはいますか。私が好きな頃のヒーローは、アンパンマンでした。困っている人に自分の顔をあげたり、悪い敵をやつたり、きつと誰もが、小さい頃の記憶に残っているのではないのでしょうか。そんなアンパンマンの生みの親である「やなせたかしさん」。私は、こんな素敵でヒーローを生み出したやなせたかしさんのことが気になり、彼の伝記を手にとって読んでみました。すると、「ヒーロー」に対す



る考え方が大きく変わりました。

「ヒーロー」という言葉を聞いたとき、みなさんはどんなイメージをもつでしょう。怪獣をたおしたり、悪を成敗したりする強くてたくましいイメージがあるのではないのでしょうか。しかし、やなせさんは「強いからヒーローなのではない。喜ばせるからヒーローなのだ。」という言葉を残しています。「喜ばせること」がヒーローの条件だということです。このように「喜ばせること」をヒーローの条件として考えた背景には、やなせさんの戦争体験がありました。

やなせさんは、21歳の頃に赤紙が届き、兵隊として戦争に行きました。もちろん「いやだ」とは言えませんが、戦地では辛いことばかりでしたが、一番辛かったのはお腹が減ることだったそうです。そして、お腹をすかせたまま、やなせさんは終戦を迎えました。

やなせさんは、「正義なんていい加減なものだ」と思っていました。自分たちは正義の味方のつもりで、わざわざ中国まで行って戦っていたのに、負けた途端に悪者扱いされる。こんなバカバカしいことはありません。「本当の正義ってなんだろう」お腹を空かせたやなせさんは考えました。「正義を振りかざして悪いやつをやつつけるのは違う。飢えているときに、我が身を差し出して飢えから救ってくれるのが正義だ」。この考えはやなせさんの心のなかにずっと残っていました。そして、生まれたのがアンパンマンです。

これまで私の中にあった「強い」というヒーローのイメージが、大きく変わりました。何かをたおしたり、成敗したりすることではなく、相手の立場に立って行動することができる者こそが、ヒーローだと私は思いました。こんなヒーローになれて

いるかなと考えたとき、私は1年生に對してそんな存在になれているのではないかと思っていました。1年生が入学して、筑後小のことが分からず困っているのではないかなと私は思いました。だから、朝、学校に来たら、すぐに1年生のところへ朝の準備の手伝いにいくようにしました。1年生は、自分の教室を忘れていたり、どこにランドセルを置いたらいいのか分からなかったりしていました。そこで私が教えると、不安そうな1年生の顔が、ぱっと明るく安心した表情になったような気がしました。私は、そのとき、1年生の気持ちになって行動してよかったなと思いました。それから、私は困っている1年生に進んで声をかけていきました。すると、自然と1年生が私の顔や名前を覚えてくれて、話しかけてくれるようになりました。相手の立場を考えら

れる人は、周りからも頼られるんだと気付きました。

また、やなせさんは、2011年3月11日、「東日本大震災」をきっかけに、ヒーローについて再度、考えられたそうです。東日本大震災は、とても大きな地震で、多くの犠牲者を出しました。幸いやなせさんや彼の周囲に大きな被害はありませんでしたが、テレビに流れる被災地からの映像を見ていると、悲しくて胸が詰まるような思いだったそうです。「日本がこんなにひどいことになったのに、漫画家はなんて無力なんだ」やなせさんはそう考えていました。ところがその頃、被害が大きかった地域のラジオ局などに「アンパンマンのマーチ」のリクエストがたくさん届くようになっていたのです。やなせさんでは、体調が万全ではない中でも、アンパンマンが人々を励ますイラストがかけられたポスターを作成

して、被災地に送ったそうです。このポスターは、子どもだけでなく、たくさん被災地の人々を笑顔にさせました。困っている人に手を差し伸べるアンパンマンだけでなく、やなせさん自身もヒーローなんだと思います。

私には夢があります。それは、その人に合った薬を処方する薬剤師です。薬剤師は、病気で苦しんでいる人を薬で助ける仕事です。そのため、病気の辛さやきつさを、病気の人の立場に立って考えることが大切だと思います。だからこそ、私は、病気の人はもちろん、全ての人のヒーローになる薬剤師になれるように、周りの友達のことを考えながら、思いやりの心をもっともつと育てていこうと思います。

## 私の思う「強い心」

羽犬塚小学校 6年

永田 くるみ

日々の生活の中で、「もう無理かもしれない」と感じたとき、あなたならどのような行動を選びますか。これまでの私は、「あきらめる」という選択をすることが多かったように思います。例えば、家族のために夜ご飯をつくらうと思いつて取り組んでいても、こぼれてしまったり、何か材料を忘れてしまったりすると、気持ちが悪くなり、つくることをあきらめてしまふ、ということもありました。

そんなときに出会ったのは、二十四年間という短い人生の中で多くの素晴らしい小説を遺した、樋口一葉の伝記でした。この旧五千円札を見てください。みなさんもよく目にしたことがある、この人物が、日本銀行が発行したお札に初めて女性として登場

した、樋口一葉です。彼女を一言で表すと、「どんなに厳しい状況にあっても、夢に向かって最後まで挑戦し続ける人」だと思います。さまざまな苦労の連続であった彼女の生き方から、私は、「粘り強い心」をもって生きることが大切であると考えようになりました。

幼いころには、明治政府の役人として働く父のもと、何不自由なく暮らしていた一葉でしたが、十五歳のときに、家の跡継ぎであった兄を、十七歳のときには、父を亡くしました。父の借金もあり、これまでとは違って貧しい暮らしをした一葉は、母と妹を養うため、憧れていた文学の世界で、小説を書いて生活費をかせぐことを決意しました。しかし、小説家としての仕事は、常に「順調」と言えるものではありませんでした。次の作品ができず、借金が増えていったり

、仕事の依頼が増えてきたころに重い病気にかかってしまったり、苦悩の日々もとても多いものでした。十代のころには、和歌や書道を学ぶために通っていた塾で、仲間と自分の字を比べて落ち込んでしまうという、私と似ている一面もありました。

しかし、その一方で、一葉には、「小説を書いて、生活をしていくことは難しい」という、厳しい状況になったときでも、書き続けるために、駄菓子屋を開き、商売を始めてお金を稼ごうとするなど、「夢をあきらめない方法」を考える「粘り強さ」がありました。この粘り強さこそが、今でもたくさんの人に愛される小説を遺すことができた樋口一葉を支えていたのです。

一葉のように、どんな困難があってもあきらめない、「粘り強さ」をもっていれば、これからの人生の中で、新しい知識に出会っ

たり、見たことのない世界をみたりすることができるとも思いません。また、挑戦し続けていくことで、自分が大きく成長するきっかけとなる人と出会ったり、ふだんは出会うことのない、さまざまな人たちと交流を深めたりすることもできるでしょう。

今の私には、はつきりとした夢はありません。将来したいことを見つめるために、さまざまな職業について調べていると、「大変そう。私には難しいかな。」と思うてしまうからです。しかし、夢や目標を精一杯叶えようと、亡くなる直前まで書き続けた一葉の姿に心を打たれ、私も一葉のように、生涯かけて「粘り強く叶えたい」と思うことのできる夢や目標をもちたいと思いました。また、その第一歩として、「困った人がいたら、すぐに気付くことのできる大人になりたい」という自分なりの目標をもつことができ

ました。これからさらに、なりたい自分に近づき、好きな自分でいられるよう、「粘り強い心」をもって歩んでいきます。

## 私の挑戦

松原小学校 6年  
酒見 光

「人間五十年、下天の内をくらぶれば、夢幻のごとくなり。」

織田信長の言葉です。人の一生はわずか五十年ほどであり、天の上の時間とくらべると、まるで夢や幻のように短い、という意味です。初めてこの言葉を知ったとき、私は少し不安になりました。自分の人生もあつという間に終わってしまうのかと考えると、なんだかこわくなったからです。けれど、その後よく考えると、信長はただ「短

い」と言ったのではなく、「だからこそ、全力で生きよう」と思っていたのではないかと感じました。

織田信長は、戦国時代の武将であり、天下統一を目指して数々の戦いを繰り広げました。また、危険を恐れずに新しいことに取り組みました。それまでのやり方にとらわれない大胆な工夫をした信長の人生は、強い印象を残し、今でも多くの人に語り継がれています。それはきっと、どんな困難にも挑戦する勇氣を持っていたからだと思います。

今、私には、挑戦していることがあります。それは「あいさつ運動」です。私は毎朝昇降口に立ち、登校してくる全校のみんなに「おはようございます」と声をかけています。最初はすごく緊張しました。元氣よく言えなかったり、返事が返ってこなくて少しさびしい気持ちになったりもしました。それでも「今

日もやろう」と決めて続けていくうちに、少しずつ返事をしてくれる人が増えてきました。そして、ある日、大きな声で「おはよう！」と笑顔で返してくれた人がいて、とてもあたたかい気持ちになりました。私にとつては「あいさつを続ける」ということが挑戦でした。毎日あきらめずに取り組んだからこそ、まわりの人の心が少し動いてくれたのだと思います。「続ける勇氣」「困難に立ち向かう勇氣」が大切なのだと思えました。

私には将来、挑戦したいことがあります。それは、SDGs『持続可能な開発目標』に向けた取り組みの一つを達成できるように働きかけることです。どの目標に挑戦するかは、これからもっと勉強をして、具体的に決めていきたいと思っています。SDGsとは、よりよい世界をつくるための世界共通の目標です。現在はまだ、

その目標達成には程遠い社会です。それは、まだ世界中で、その目標を達成するよさを理解してもらえていないからだと思っています。しかし、私は実現できると思っています。

失敗することも、思い通りにいかないこともあるでしょう。それでも、そこであきらめずに「次はこうしてみよう」と立ち上がる事ができる人がいれば、いつか必ず実現できると思うからです。私は、その「立ち上がる人」になりたいのです。

しかし、これは決して一人だけで頑張っても実現できないこともわかっています。だからこそ私は、共に行動してくれる仲間を作る力が必要だと考えます。そのために、今の私ができることは、挨拶運動を続けることを通して、人とつながる力を高めることだと思っています。だれにでも挨拶をし、明るい松原小を作る仲間を増やし、信頼

される六年生になりたいと思います。その経験はきっと、将来の私を支えてくれる、大切な自信になると信じています。

「人間五十年」という言葉は、信長の生き方を知れば知るほど「一日一日を大切に生きよ」というメッセージなのだと感じます。だからこそ、私は毎日の小さな挑戦を積み重ね、いつか共に行動してくれる仲間と全力で追いかけていけます。そして信長のように、だれかの心に残る生き方をしたいと思います。

みなさんも、「自分の挑戦」を全力で続けてみませんか。それはきっと、誰かの心に届きます。私も、一緒にがんばります。



## 薦屋重三郎から学んだこと

西牟田小学校 6年

加藤 奏蘭

みなさんは、本屋さんで聞くと、どんなイメージを思い浮かべますか。私は、本がたくさんある静かなお店で、のんびりと仕事をしているイメージをもっていました。でも、この本に出会って、江戸時代に新しい文化を創って活躍した本屋さんがいたことに驚きました。その人の名前が、薦屋重三郎です。みんなからは親しみを込めて「つたじゅう」と呼ばれていました。「つたじゅう」の生きた江戸時代は町の人たちのくらしの中から、さまざまな文化が生まれていきました。歌舞伎や浮世絵などは、みなさんも聞いたことがあると思います。つたじゅうは、23歳で「耕書堂（こうしょどう）」という名の本屋さん

を開き、「吉原細見（よしわらさいけん）」という遊郭（ゆうかく）のガイドブックを発表しました。つたじゅうが発表した「吉原細見」は、読む人に喜ばれるように、お店の場所が分かりやすく描かれ、薄くて持ち運びが良い所などの工夫がされており、たくさんの方が買い求めました。そして、つたじゅうの「耕書堂」は江戸で人気の本屋さんになったのです。さらに、つたじゅうは、読む人がもっと楽しんでくれる絵本を作りたいと考え、それまで白黒の絵が当たり前だった絵本ではなく、もっと豪華なカラー印刷の絵本をつくろうと考えました。これが「多色刷り」とよばれる方法です。多色刷りには「絵師・彫師・摺師」と呼ばれる職人たちの協力が欠かせません。みなさんも図画工作の学習で版画をしたことがあると思いますが、私たちは版画の板に下絵を描いて、彫刻刀で

彫り、摺るところまで一人で行います。ですが、この多色刷りは、はじめに「絵師」が下絵を描き、次に「彫師」が板を彫り、最後に「摺師」が紙に色を重ねて写し取るのです。赤や青の色ごとに別の板を作って何度も摺る、時間と技術のいる作業でした。つたじゅうは職人たちの仕事場に何度も通い、信頼関係を築きながら協力し合うことで、多くのヒット作を生み出しました。しかし、つたじゅうの挑戦は順調なことばかりではありませんでした。江戸幕府の老中・松平定信が行った改革によって、風紀を乱すとされた本は厳しく取り締まられました。つたじゅうが出した本もその対象となり、財産を没収され、という大きな打撃を受けました。それでも彼は、「人々を楽しませる本をつくる」という信念を曲げることはありませんでした。困難に直面してもあきらめず、自分の信

じることを貫いたのです。私は、つたじゅうの生き方から、二つのことを学びました。一つ目は「協力の大切さ」です。私は、将来、建築士になりたいという夢をもっています。家やビルをつくる建築の仕事は、一人ではできません。設計する人、材料を準備する人、建てる人など、多くの人が力を合わせて協力することで建物は完成します。でも、今の私は誰かと一緒に活動したり、話し合ったりするのが正直、苦手です。班活動では、自分の意見を伝えられず、本当にやりたいことができないことがあります。でも、つたじゅうがいろいろな職人さんと力を合わせて、素晴らしい多色刷りの絵本をつくりあげる姿に、協力しなければできないことがあるのだと気づきました。二つ目は「信念をもって物事をやり続ける大切さ」です。私のこれから長い人生の中には、きっと、いくつも

の困難に直面することがあると思います。そのときに、つたじゅうのように、たとえ厳しい環境の中でも、自分の信じる道を歩む強さをもちたいと思いました。建築士になる夢をかなえる中で、困難や失敗もあるでしょう。そのときに、つたじゅうのように信念をもって進んでいきたいです。江戸時代の一人の本屋さんの生き方から、私はこれからの生き方へのヒントをもらいました。



やなせたかしさんから  
学んだこと

筑後北小学校 6年

川口 弘喜

みなさん、まだ幼い頃、アンパンマンに夢中だった記憶はありますか？やなせたかしさんが描いたこのキャラクターは今ではたくさんの方が知っている国民的キャラクターと言えるでしょう。やなせたかしさんは小さい頃から漫画家になりたいという夢がありました。しかし、その夢は簡単に叶ったわけではありません。一九四一年、太平洋戦争では、兵の一人として戦争に参加しなければなりません。戦争でたった一人の弟を亡くし、疲れやけがよりも食料がなく苦しい体験をしたことで「正義とは何か」という問いに向き合うきっかけになりました。そして、戦争が終わり、食料不足で辛かった体験から

アンパンマンが生まれま  
した。そんなやなせたかし  
さんの生き方に触れ、心に  
残ったことが二つありま  
す。

一つめは、「本当に強い  
ヒーローは、自分以外の人  
のために、自分を捧げられ  
る人」という考え方です。  
世界に目を向けると、戦争  
で安心して眠ることや暮  
らすことができない国や  
地域が今でもあります。や  
なせさんのように他人の  
ことを思いやり、他人のた  
めに頑張ることが本当の  
正義だとみんなが考える  
ことができれば、今よりも  
っと平和な世の中になる  
のではないかと思います。  
アンパンマンは自分を犠  
牲にして、人々に喜びと生  
きる意味を教えてくれま  
す。困っている人を助け喜  
びを与えるアンパンマン  
の行動を、子どもだけでな  
く大人も忘れてはいけな  
いのだと思います。

はいけない」ということで  
す。やなせさんがアンパン  
マンの本を出版したのは、  
五十四歳のときで、テレビ  
アニメになったのは六十  
九歳のときでした。小さい  
頃からの漫画家になりた  
いという夢を諦めずにい  
ろんなことに挑戦してき  
たからこそ夢を叶えるこ  
とができたのでしょう。な  
かなか結果が出ないこと  
を根気強く続けることは  
難しいことです。でも、そ  
こで諦めることなく夢を  
追い続けることができた  
なら、きつと、夢に向かっ  
ての一步は始まっている  
のだということに気付く  
ことができました。

この先いろいろな経験を  
していく中で、やなせたか  
しさんのように、私と関わ  
る人に喜びを広げること  
ができる人になりたいと  
思っています。そして、や  
なせさんの生き方から学  
んだ自分の夢の実現に向  
かって一步一歩前へ進ん  
でいきたいです。

## 【中学生の部】

### 筑後市の文化と私

筑後北中学校 2年

富安 湖々南

私の住んでいる地域で  
は、毎年、七夕まつりがあ  
ります。笹の葉にくくりつ  
けた鮮やかな飾り付けや  
願い事が風に揺れて心も  
躍り出します。おみこしを  
担ぐ子供達に打ち水をさ  
け合い、笑い声や何かをさ

けぶ声が辺りに響きます。  
このお祭りにいろんな人  
が来て、おしゃべりをした  
り屋台の食べ物を一緒に  
食べたりするのがいつも  
楽しいです。

私の地域だけではあり  
ません。真つ黒な子鬼が歩  
き回る盆綱曳きや、熊野神  
社の火祭りなどずっと続  
いてきた伝統的なお祭り  
もありますし、筑後の花火  
大会やちっご祭など盛大  
でたくさんの人で賑わう  
祭りもあります。

私はお祭りが大好きで  
す。友だちと一緒に食べた  
り飲んだりしながらおし  
やべりするのが楽しいと  
いうこともあります。い  
ろんな世代の人が一つの  
場集まるという機会が  
とても貴重だと思うから  
です。

地域の代表的な祭りでは、  
年配の方がいつまでもに  
どんな準備をしなければ  
ならないか、その経験から、  
ためになるアドバイスをし  
てくださいます。そして

「このお祭りの飾りは、こんなふうにつくるんだよ。」とか、「じいちゃんの時はおもったこんなことをしていた。」とか、昔の話を面白おかしく話してもらったり、お祭りの謂われを話してくださったりします。こうして地域の文化が引き継がれていくんだなあと実感します。

しかし、どの祭りも年々規模が小さくなりつつあると思います。それはどうしてなのでしょう。一つは祭りを運営される方の高齢化だと思います。運営される方が少なくなれば、祭りも相応の規模でしか実施することはできません。もう一つは若い人たちが伝統的な祭りに対して関心が薄いのではないかということ。今の世の中は祭り以外にも面白いものであふれていて、祭りに参加する気があまりわかないでいるのではないのでしょうか。ですが、祭りに参加することは筑後市

の伝統文化を守っていくことにもなると思います。若い人たちにもっと関わってほしいと思います。

一方、花火大会やちっご祭は誰もが楽しめるイベントです。花火大会はもちろん、ちっご祭はステージでの面白いショーや様々なお店が出て、町が賑やかになります。もちろん私も毎年楽しみにしているお祭りです。最近道路が整備されて大きくなり、いろんな方面から人が来やすくなったように感じます。

こういうイベントは筑後市のことを多くの人に知ってもらういい機会だと思っています。祭りを楽しみながらおいしい食べ物を味わったり、伝統文化に触れたりしてほしいです。私たちはSNSを使いこなしています。そのSNSを使って、このような祭りを発信していけばもっと注目してもらえenと思います。

祖父たちの思いを受け

継ぐ伝統的な祭り、賑やかに多くの人を誘い込む大きな祭り。「祭り」を通していろいろな人と関わり合える筑後市の文化を大切にしていきたいと思っています。

## みんなが帰る場所、筑後市

筑後中学校 2年

葉山 未菜

「少子高齢化社会」と聞いて、みなさんは筑後市のこれからをどのように想像しますか。

第3期筑後市人口ビジョン第2期筑後市総合戦略によると、2020年に4万8,827人とピークを更新するも、それ以降は減少に転じていくとされています。

年齢3区分別にみると、生産年齢人口の全体に占

める割合は減少しており、2050年には51.9%になる推計に。また、年少人口は長期的な減少が続く、2050年までには12.8%までに減少する見込みだそうです。一方、老年人口の割合は増加しており、2035年以降は人口の30%以上が65歳以上の高齢者になるというデータが出ています。

私は将来、進学のために筑後市を離れるかもしれませんが。若い人達が、進学や就職を機に筑後市から離れていくのではないかと考えます。そうすると、市外へ人が移っていくことになると思います。

では、人々が筑後市に戻りたい、住み続けたいと思えるには何が必要でしょうか。

私は「筑後市へのふるさと愛」だと考えます。では、どのようにして、この「ふるさと愛」は育まれるのでしょうか。私は利便性や快適性だけでは測れないも



のがあると思います。このふるさと愛の根幹にあるのは、地域で育まれる「安全・安心」ではないでしょうか。

私は生まれ育ったこの筑後市でこれからも生活していきたいと思っています。確かに都心部に行けば、利便性のよい暮らしができるかもしれませんが。振り返ってみると、私がここまで成長してきた中で多くの「見守り」があったと思います。家族はもちろんのこと、毎日の登下校を見守って下さる地域の方々、顔を合わせれば自然とあいさつを交わすご近所さん。私のご近所ではお裾分けの文化がまだ残っています。私は日常にある、この人と人との交流、温かさが「安全・安心」ではないかと考えます。つまり、人と人との結びつきです。

これから加速していく「少子高齢化」。だからこそ、地域のネットワークがより大切に感じられます。

これからの筑後市に求められるもの、それは「子育てや教育、福祉がつながる地域コミュニティづくり」です。

私は、福島県大熊町にある「学び舎ゆめの森」という施設が、地域コミュニティとして、大きな役割を担っていると感じたことがあります。

大熊町は東日本大震災による福島原発事故で、町内全域に避難指示が出され、現在の町内人口は震災前の7%程度だそうです。町は人々に戻ってきてもらうため、震災の経験から価値観と学力観を転換し、零歳から百歳までの人々が集い、共に学び深め、支え合っているコミュニティ作りを目指しました。施設内に幼児・小・中の教育、福祉施設があり、異年齢間の交流が自然と行われています。施設の真ん中には図書ひろばがあり、年齢関係なく人々が関わり、交流が生まれているそう

です。地域の方々と協創する行事が日常的にあり、交流のみならず、まちをまとめる大きな役割を果たしています。

筑後市にもサンコアやチクロスといった交流の拠点となる場所があります。地域で子育て世帯を見守り、高齢者を一人にしないコミュニティをより一層充実させていく必要があります。誰かが気にかけてくれる、誰かをいつでも頼れる。そんなコミュニティが温かな「ふるさと愛」を育んでいくはずで「安全と安心」で包み込んでくれるふるさと筑後市。みんなで創っていきましょう。



## 大好きな町、筑後市

羽犬塚中学校 2年

田中 泰騎

「昔は羽犬塚駅前には、大きな市場やデパートがあり、とてもにぎやかだった。」

以前、近所のおじいさんからこんな話を聞いたことがあります。以前は、たくさんのお店が軒を連ね、商店街がとてもにぎやかだったということです。

今は、どうでしょう。いろいろなお店はありますが、にぎやかと言えるでしょうか。僕は、この言葉から筑後市の未来について考えてみました。

七月は、福岡県同和問題啓発強調月間です。

羽犬塚中学校の二年生の授業では、「みんなが安心して過ごせる学校生活について考えよう」というめあてで、人権学習が行われました。学校で起きるいろいろな場面を描いたイ



ラストを見て、学校生活の中で「人に優しいところ」「気になるところ」を考えようという内容でした。イラストでは、困った人を助けていたり、嫌なことをされて、そのような行動をどう思うか、また、どうしたらよいかをクラスで話し合いました。

このような意見が出ました。

「困っている人がいたら、見て見ぬふりをしない。話しかける。」「自分から気づき、行動する。」などです。

僕が考えたのは、このような取り組みを筑後市における市民生活に広げてみてはどうだろうかということです。「人に優しいところ」「気になるところ」を取り出して、みんながどうすれば過ごしやすい町になるか考え、それを実行する、そうすることで、みんなが安心安全に暮らせる、笑顔あふれる人にやさ

しい町になるのではないでしょう。

話は変わりますが、筑後市には、買い物を楽しめる多くの店やいろいろな飲食店などがあります。筑後広域公園やタマホームスタジアムなどの遊び場や、船小屋温泉のような憩いの場があり、子供から大人まで楽しく過ごせる場所があります。

ここではじめの駅前のお話に戻りますが、羽犬塚駅と今述べた場所をつなぎ、アクセスを今以上によくすること、もっと便利で楽しい町ができるのではないのでしょうか。そうすることで、筑後市内の多くの場所がにぎやかになり、駅前のにぎわいも戻ってくると思います。

現在、羽犬塚駅周辺循環バスというものが、実証運行されています。羽犬塚駅周辺地域の日常の買い物や通院に利用できるよう、スーパ―や病院、市役所などの公共施設を循環して

いるバスです。

また、交通が不便な地域における高齢者などの移動のために、地域の人と市の協働により筑後市コミュニティ自動車が多様な場所で行われています。

今後は、それらを利用しやすい料金設定、例えば、高齢者や子どもは無料にしたり、バスの利便性を今以上に良くしたりすると、多くの市民の方が利用しやすくなり、人の移動が盛んになり、駅前も含め、市も発展するのではないかと思います。

人口五万人のこの町は、くつろぐ場所や買い物をするところがたくさんあり、どこにでもすぐに行くことができる、そして、思いやりにあふれ、人に優しい。僕は、このような筑後市が大好きです。ずっとこの町に住みたいと思っています。

